県立赤城公園の活性化に向けた基本構想（案）

概要版

令和４年（2022年）

群馬県

赤城ウェルグラウンド構想に関して

【プロジェクト背景】

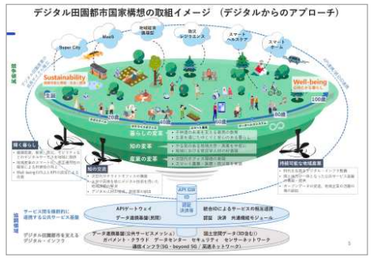
1 東日本大震災およびCovid-19による観光客数の低下。少子高齢化による人口減少など、2025年以降の社会問題を見据えた、**持続型発展基盤の創出**。

2 前橋スーパーシティ構想との連動を果たし、好条件な環境や状況に既存基盤を組み合わし、新たな価値を創造。潜在ポテンシャルを活かし、差別化が容易かつ発信力の高い全体構想を目指します。

前橋市スーパーシティ型国家戦略特別区域提案書より

【アプローチ】

1 都市間格差の解消と地域活性化を目指す**「デジタル田園都市国家構想」**の実装モデルエリアを見据え、前橋スーパーシティとの連動を果たし、**地域レジリエンスモデル**として構築。



デジタル庁 デジタル田園都市国家構想より

2 近年グローバルアジェンダとして位置付けられる“Well-Being”意識の高まり、**GDW（国内総充実）**などの新しい指標や価値観を踏まえた構想が求められる。

GDW - 日本経済新聞より

【構想ビジョン】

赤城ウェルグラウンド

赤城山の「自然」をハブにしたまちづくり拠点。特別なエクスペリエンスを醸成することで、話題性・満足性を向上させ、幅広い世代が集まり、地域の魅力を高める場を創造する。

【現状と課題】

赤城山を巡っては、1980年代に年間100万人を超えた入り込み客が**近年は50万人台**で推移。自然観光資源はあるものの、行動消費や中長期滞在が減少傾向にあり、山麓を含めた魅力の掘り起こしや発信も課題となっていた。

現状分析

■ 山頂エリア宿泊客数（2019年度）観光庁 赤城自然塾DMO形成・確立計画より

約14万人　前橋市における来客比率｜日帰り8：2宿泊
群馬県 令和元年観光入込客統計調査報告書より

■ 旅行消費額（2020年度） 観光庁 赤城自然塾DMO形成・確立計画より

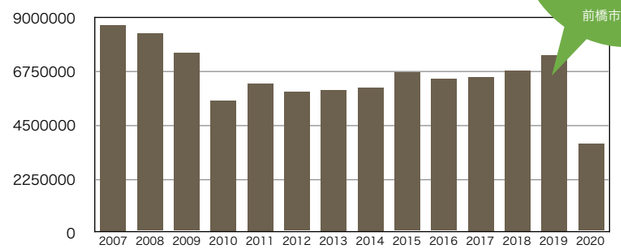
約12億円　前橋市の観光入込客数は群馬県でトップクラスであるにも関わらず、旅行消費額＝延べ宿泊者数が少ないことが課題

■ 町別人口（2021年11月30日現在） 町別住民基本台帳人口表より

群馬県前橋市 富士見町赤城山　336世帯 643人

■ 前橋市観光客数

山頂エリア観光客数 約54万人（2019年度）前橋市提供数値

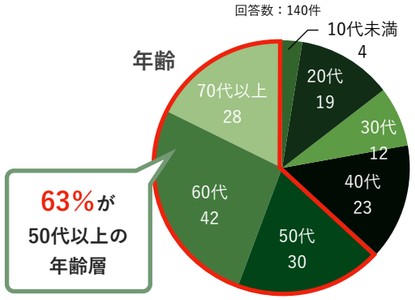


前橋市入込客推移｜群馬県統計情報提供システムより

前橋市は県立赤城公園などの自然観光資源を要するが、観光客の減少傾向が続く。赤城エリアでは日帰り観光が中心となり、旅行消費額に繋がる宿泊客が少ない。今後も人口減少と共に更なる観光客の減少が見込まれる

■ オープンハウス調査結果分析（結果抜粋）

実施日：2021年10月21日～24日
実施場所：赤城公園ビジターセンター前
回答数：140件



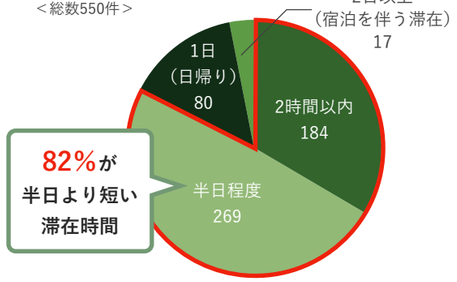
今日はどこへ行くか	来訪の目的
消費に繋がる場所への立ち寄りがほとんどない	**登山や自然観察が大部分の目的を占める**

利用実態に近い調査結果季節や天候条件も影響していると考えられるが、利用者のほとんどが登山や自然観察を目的としており、年齢層は50代以上が半数を超え、利用者層の偏りが見られた。立ち寄りに関する質問でも、自然観光以外に消費に繋がる場所がほとんど上がらず、課題感がうかがえる結果となった。

■ 赤城山(県立赤城公園)の活性化に関するアンケート分析（結果抜粋）

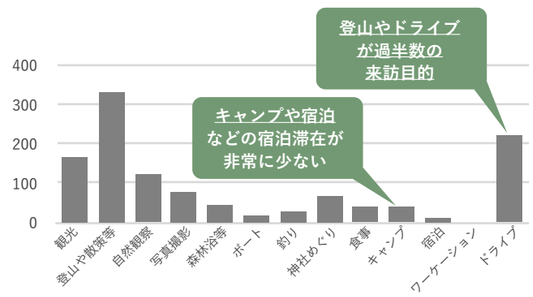
実施日：2021年12月1日～12月24日
実施方法：一般公開リンクによるウェブフォーム形式アンケート
回答数：601件

1回あたりの滞在時間
＜総数550件＞



（滞在時間について）
直接的な数値としても、宿泊滞在が行われていないことや、日帰り利用者がほとんど消費を行わずに立ち去ってしまっている実情が表れている。

（赤城公園へ）来訪する主な目的



（来訪目的について）
赤城公園と好きな「自然を体験できる場所との来訪目的の比較では、近しい目的の分布が見られると同時に、一部アクティビティ・飲食・キャンプなどで赤城公園以外の数値が高く、目的として求められやすい傾向が見える。温泉や子供の遊び場など、赤城公園で目的にできていない項目も上がり、新たな需要としても考えられる。

調査やワークショップから公園に求められる機能を整理する

■地域住民の想いと期待をリサーチ

第１回あかぎ会議

日付：2021年11月８日　14：30～17：50　場所：ヒュッテハヤシカフェ　参加：地元参加27名

会議概要

本事業やスローシティ構想についての説明を実施した後、赤城公園の魅力について地域住民の皆さまとワークショップを実施

ワークショップ内容

・テーマを変えながら意見を出し合う
・グラフィック化して魅力と課題を整理

テーマ

・私が感じている“いま”の赤城公園の魅力
・私が利用者から聞いている赤城公園の魅力

■赤城公園の魅力

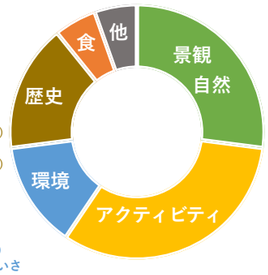
第1回あかぎ会議ワークショップ結果概要

・体育館が使える
・無料で楽しめる

・ワカサギ料理
・山菜ラーメンが普通にうまい

・赤城山の成り立ちや歴史背景
・むかでと蛇の伝説
・赤城神社の伝説
・文化人との縁（絵・詩・小説）
・文豪の愛した青木旅館
・作品の舞台（詩・小説・漫画）

・涼しさ
・高地トレーニングに最適
・静かさ
・ゆったり過ごせる
（テレワーク、チェアリング）
・しずかな時間帯の湖畔のきれいさ



・大沼の鏡面反射
・鳥居峠からの雲海や朝日
・展望（スカイツリーや富士山）
・星空（天の川がよく見える）
・アイスバブル、気嵐、ダイヤモンドダスト
・覚満淵
・写真家の集まる景色やフォトスポット
・四季を感じる
（草紅葉、つつじ、紅葉、霧氷）
・変わらない自然の魅力
・花の種類の多さ

・ハイジのブランコ
・木登り体験
・滝めぐり、秘境ツアー
・わかさぎ釣り（難易度高め）
・氷結湖面を渡る
・スキー、スノーシュー
・湖畔でBBQ
・カヌー・カヤック
・スキー場で子供を遊ばせられる
・豊富な登山ルート
・ドライブ
・湖畔回りでのランニング

⇒赤城公園の魅力や特色を整理

第２回あかぎ会議

日付：2021年12月20日　12：30～15：30　場所：前橋市赤城自然少年の家　参加：地元参加27名

会議概要

第1回会議結果を踏まえた構想進捗の説明とテントサウナ体験を実施後、ワークショップにて滞在に関する提案方法を検討

ワークショップ内容

・設定に合わせて、各チームごとに
体験してもらいたい事を滞在プラン化

課題設定

・滞在期間：2泊3日以上
・季節：春夏秋冬
・ペルソナ：40代夫婦＋小学生2名
／20代カップル

第2回あかぎ会議ワークショップ結果概要

春	夏	秋	冬
40代夫婦＋小学生2名	40代夫婦＋小学生2名	20代カップル	20代カップル
大人も子供も体験！わくドキ春の赤城山プラン	**五感で体験！専用コンシェルジュ監修**	**秋の絶景を満喫、二人の時間を楽しむプロポーズ大作戦**	**2泊3日首都圏発天空の“ときめく”グランピングキャンプ**
・E-Bikeで巡るつつじや新緑の旬スポット ・鳥居峠でご来光体感 ・地蔵岳でナイスビューを展望 ・大沼でカヤック体験	・インストラクター指導によるクワガタ取り ・涼しい高地気候の中で女子ヨガ体験 ・シェフ提供地産地消BBQ ・親と子で分かれて過ごすワーケーション滞在	・白樺牧場で紅葉狩り絶景ツアー ・大沼湖畔でチェアリング ・BBQホールでプライベートディナー＆夜景バー ・流星群を眺めるナイトハイク	・ダイヤモンドダスト体感 ・湖上でワカサギ釣り＆コーヒーブレーク ・覚満淵で動物の足跡を探すスノーシュー体験 ・日本一小さいスキー場でそり体験

⇒滞在時間延長のための具体案を検討

■ 県立赤城公園内各施設の可能性と課題感

赤城公園キャンプ場

大沼湖畔の立地が魅力的な施設ではあるが、無人管理の不便さやルールが守られていない現実、またオートキャンプに対応していない設備面など、有効に活用されていない現状。

赤城公園ビジターセンター

通年オープン。覚満淵等への登山口も近く、出発拠点となる施設。一方で展示室など機能しておらず、トイレのみの利用が目立っている。暗い印象を受ける利用の声も見られる。

文教地区・厚生施設団地エリア

大沼湖畔に近い魅力的なエリアで、文教地区と厚生施設団地エリアに分かれる。近年入居されていない敷地や廃屋が目立ってきており、立地を活用しきれていない印象が強い。

赤城公園テニスコート

テニス用時間貸のコートだが、近年需要の減少で閉鎖中。覚満淵とビジターセンターをつなぐ立地で雰囲気にも影響するため、積極的な活用方法が求められる施設。

赤城山総合観光案内所

公園の総合案内所として、地域に関する展示が魅力的に行われており、白樺牧場への景観も良好、飲食提供も有。立地が大沼から離れているため、他施設と連動しにくい。冬季閉鎖。

大洞商店街

大沼湖畔に近接する一等地に位置し、山頂エリアの賑わい中心地。年数が経過した施設も多く「印象が暗い」というアンケート結果も見られた。景観面も含め、活性化も求められる。

赤城少年自然の家

少年自然の家として、林間学校・イベント利用等、主に団体に向け周辺自然を活かした環境を提供。体育館兼艇庫は地域でも活用されている。一方で一般利用は行われにくい。

鳥居峠

関東平野や赤城山頂エリアを望める魅力的な立地。旧山頂駅はレストランとお土産屋として活用されている。アクセスのよさと展望を活かして赤城の魅力をより発信していける場所。

小沼

火山活動でできた火口湖。春にはツツジなど、秋は紅葉と自然に囲われた魅力的なエリア。地蔵岳の登山口としても使用される。設備としてはバイオトイレのみ設置。

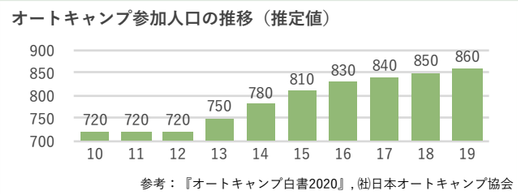
覚満淵

周囲約1ｋｍの小さな湿原で、湿生植物と高山植物の宝庫。ビジターセンターから近く、1周する木道も整備もされていることから多くの方が自然観察に訪れる景勝地兼目的地。

⇒各施設の活用度を高めてエリアの活性化

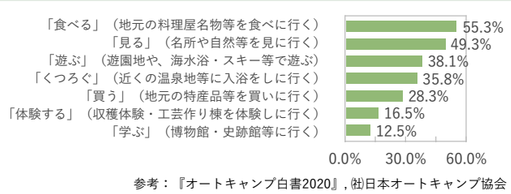
■アウトドアに対する需要

年々オートキャンプ人口は増加傾向、特に関東圏ではキャンプ場不足



参考：『オートキャンプ白書2020』, ㈳日本オートキャンプ協会

キャンプ宿泊に伴い、周辺地域へは波及効果が見込まれる



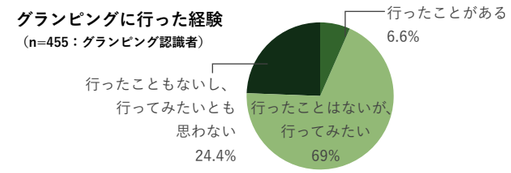
参考：『オートキャンプ白書2020』, ㈳日本オートキャンプ協会

東京から約１００km 、首都圏から適度な距離感の好立地

オートキャンプ場の採算ラインの立地条件は100万人都市圏から車で2時間圏内とされ、首都圏からの集客を望める好立地。一方で、同距離圏内には多数キャンプ場があるため差別化が一つの課題。

参考：『オートキャンプ白書2020』, ㈳日本オートキャンプ協会

需要が高まるグランピングやアウトドア体験を伴う宿泊



参考：『2019年キャンプに関する調査』, 楽天インサイト㈱

■県立赤城公園に求められる機能の整理

調査からみる期待される機能

【問５－９．赤城山（県立赤城公園）の活性化にあたり希望することはありますか】 赤城山（県立赤城公園）の活性化に関するアンケート結果より

キャンプ場や宿泊施設	カフェや子供の遊び場	インフラ整備や自然環境保全
など宿泊滞在に対する期待は大きい	など滞在空間に関する要望も多い	など環境について要望も多数

【Q：滞在時間を増やすため、どのような機能・施設があったらいいと思うか】 ※オープンハウス調査結果より

情報発信や案内
に対する要望が現地で特に聞かれている

赤城公園に求められる機能 機能系統図作成ワークショップより

情報発信・観光案内機能の整備（ビジターセンター）	体験を取りまとめる団体や事業者が参画しやすい仕組みの組織や整備
体験型宿泊機能の整備（キャンプ場・グランピング施設等）	環境保全についての整理・計画

サスティナビリティ × ウェルビーイング

持続的循環生活圏の創造

新たな「場」の相互作用によって、山頂エリア全体に回遊性が生み出され、
滞留時間が延びることで、人々の消費活動に寄与。
地域の活性化と新たな雇用や就労機会を生み出していきます。
自然と人とが有機的に交わり変化し続け、**「循環型自律経済基盤化」**
させるだけでなく、地域市民、現地事業者、来域者の**“三方善し”**を構築。
豊かな自然を保全しながら、地域の持続的な関係や循環を最大化させます。

持続的循環生活圏

来訪機会の創出
- 敷居の低い宿泊・キャンプエリア -

大沼の景観を活かしたキャンプ場を構築し、集客性を強化。大沼全体の賑わい、周辺施設への消費活動に寄与。

◆大沼（Onuma Camping field）

地域交流・商業の持続
- 活気溢れる商店街エリア -

ビジターセンターを交流拠点として構築。大沼キャンプ場と連動させ、さらに滞在性や回遊性をプラス。

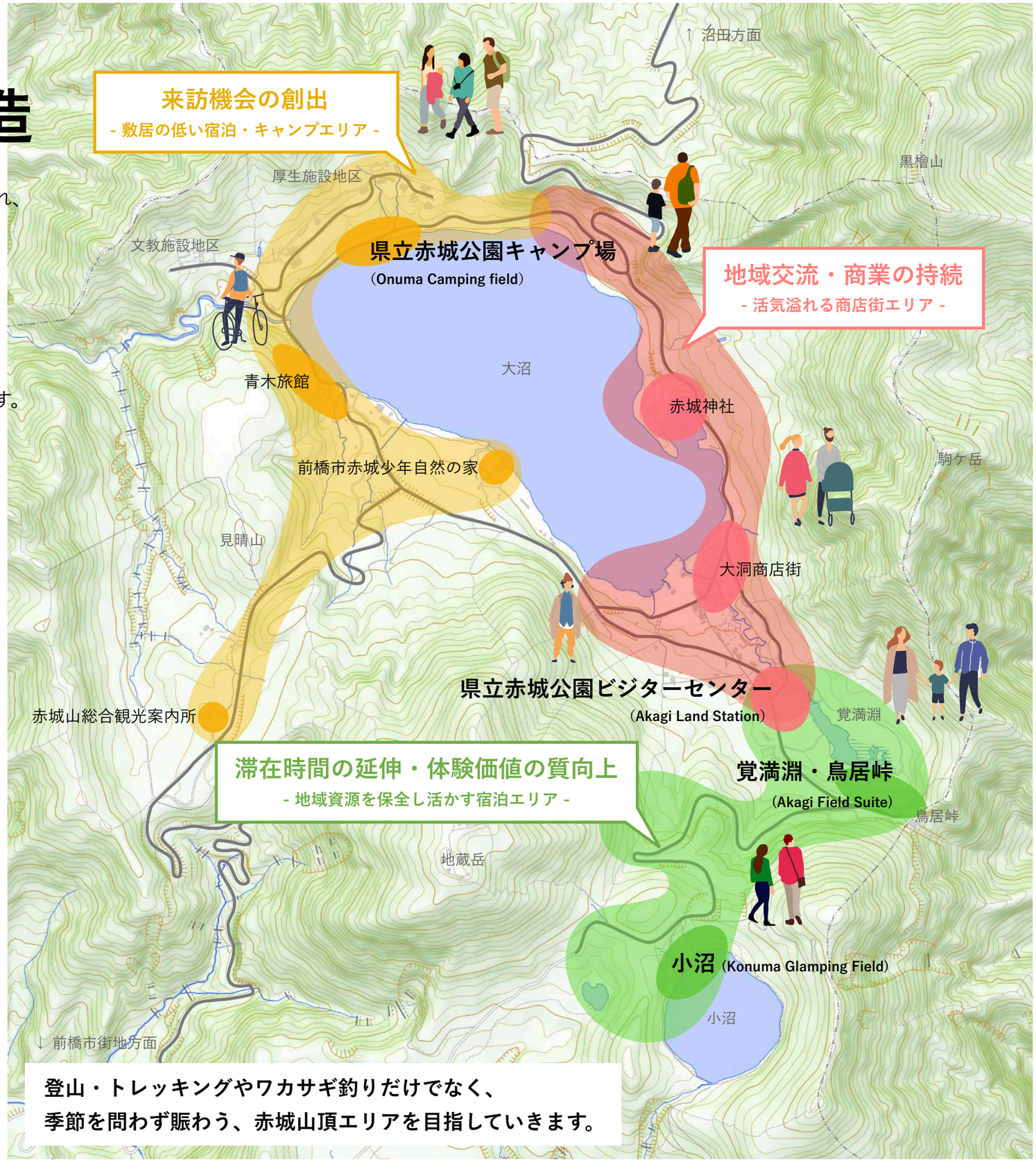
◆ビジターセンター（Akagi Land Station）

滞在時間の延伸・体験価値の質向上
- 地域資源を生かす宿泊エリア -

特別な史産である覚満淵・小沼に唯一無二の宿泊施設を構築。自然保全に注力した質の高い体験価値が人が人を呼ぶ状況をつくる。

◆覚満淵・鳥居峠（Akagi Field Suite）

◆小沼（Konuma Glamping Field）



赤城山全域の回遊を図る施策案

施設アイデア

1 Onuma Camp field
大沼キャンプフィールド

既存の県立キャンプ場を拡張した、大規模なキャンプサイト。宿泊・温泉施設や飲食店などと連携し、エリア全体の年間の活気を促します。

県立赤城公園
キャンプ場

2 Akagi Land Station
赤城ランドステーション

赤城山の広域的サービス提供の中核的な場所として位置づけであり、自然エネルギーや資材を再利用することで環境的配慮を意識したデザインに。

県立赤城公園
ビジターセンター

3 Akagi Field Suite
赤城フィールドスイート

覚満淵の四季折々美しい自然の風景を楽しめる、特別な宿泊施設。自然環境になるべく影響がないよう、周囲の自然に配慮したデザインに。

覚満淵・鳥居峠

4 Konuma Glamping Field
小沼グランピングフィールド

自然豊かな小沼を楽しむための小規模なキャンプサイト。既存の駐車場を利用し、東側にグランピングサイト、西側にテントサイトを計画。

小沼

地域連携プログラム

■ 官民共創プラットフォームの構築

周遊滞在の企画提案と情報発信

赤城山観光案内所と赤城ビジターセンターでの滞在空間・情報発信の機能を再整備。地域に密着する方々だからこそわかる体験をプラン化、周辺状況を踏まえた、エリアでの過ごし方を提案します。

ルートマップイメージ（ホワイトシーズン）